

西小は おおきな 家族  
**Family**  
～校長のたわいもない独り言～

平成 30 年 11 月 14 日 (水) No.38  
発行人

5 粒もらった黒い実は「洋種山ごぼ  
う」。どうも毒らしい(^\_^;)の川崎先生

### ◇11/7 (水) 図書集会◇

いやあ、面白かった絵本の「うどんのうーちゃん」。まずはこの本を選んだ人に拍手を贈りたい。全校がみーんな興味深く最後まで見入り、聞き入っていた。その上、声優たちの成り切り上手な事。関西弁をあんなに上手にしゃべれるとは思わなかった。きっとたくさん練習したんだろうね。図書館キャラクターの「ボウボウ本(ぼん)」。これもよく考えてあるなあ。司会から、読み聞かせから、表彰にいたる全ての行動が、細かなところまで本当によく練られていて、その陰に多くの練習があったことが容易に想像できる。すべてに感心して、そして心から楽しかった集会でした。＼(^o^)/

### ◇11/8 (木) 高尾穂見神社学習会(4, 5, 6年生)

山奥の不思議な神社「高尾穂見神社」。保坂太一先生が鼻高々に「えっへん!! していい」と言うだけあって、何とも素晴らしく、そして不思議な神社だった。長野や静岡にたくさん“高尾穂見神社”があり、これらはすべてこの地の穂見神社を勧請したもの。だから高尾の夜祭には、県外からもたくさんの方が来ること。夜祭りの歴史も古く、100年前の本に載っているだけでなく、1000年前の書物にも名前があること。神楽も最低でも200年以上の歴史があること。多くの方が迷わないように、県内各地に道標(石で作られた案内表示)が置かれていること。穂見神社の狛犬が日本で一番かわいい狛犬だと、マニアのホームページに載っていること(^\_^)、などなど。

確かにここの夜祭りは独特の雰囲気を持っている。お祭りとは言うけれど、神楽や巫女の舞が舞われている境内は、神秘的であり不思議な空間である。パワースポットと言っても良いかもしれない。こんな神社がこの地域にあることは大変誇りであると同時に、このような歴史ある祭りに“子狐の舞”“巫女”として参加している西小の子どもたちって、他では得られない貴重な経験をしている。この伝統はずっと繋いでいきたい。

### ◇今日の雑感◇

・今日は朝からいろんなものをたくさんもらいました。まずは玄関を掃き掃除してくれた男の子から「これめずらしいからあげる」と、裏が半分から二色に分かれている落ち葉。「校長先生目をつむって手を出して」と女の子。その手に入れてくれたのはこれまた落ち葉。でも広げてみると何か味わい深い色合い。落ち葉も深いなあ。別の女の子がくれたのは小さな真っ赤な実。そのあと後ろに隠していたものを“じゃじゃーん”と見せてくれた。何だろう? ブドウのように連なった黒い実。調べるからとそのまま持って行ったけど、「少しあげる」と5粒手のひらにのせてくれた。一日がなんとも心地よく始まる。

そして今朝はちょっとだけ校門前を掃き掃除していたら、「おはようございます」と言って通り過ぎる子どもたちから「ありがとうございます」という言葉ももらった。

有形無形の様々な“もの”をくれる子どもたち。秋晴れの爽やかに澄み切った空の下、気が付くと頬の痛みも忘れていた。